

教員氏名：大屋 陽祐（保育学科／准教授）

### 1. 教育の責任（何をやっているか）

保育学科に所属し、主に、教員免許と保育士資格の両方で重要になる幼児理解や子育て支援（教育相談）を扱う授業や、社会福祉、実習関連科目、キャリア関連の科目を担当している。また、2年生が主体的に学びを深める専門ゼミを担当し、学外において子育て支援活動を実践している。なお、東日本栄養医薬専門学校において栄養士養成課程において社会福祉科目を非常勤として担当している。また、育英大学において子育て支援、発達障害の科目担当をした経験がある。

授業以外においては、群馬県バレーボール協会強化委員会副委員長を務め、群馬県のバレーボール競技の向上を図っている。また、本学において育英大学・短期大学女子バレーボールにおいてコーチを務め、関東大学バレーボール3部に所属するとともに全日本6人制女子クラブカップにおいては最高成績ベスト16を残している。さらに全国私立短期大学協会が主催していた全国私立短期大学スポーツ大会において大会開会式役員とバレーボール競技役員を務めた経験がある。

現在の主な担当科目一覧	
育英短期大学	幼児理解と教育相談、社会福祉、保育内容「人間関係」指導法、保育実習Ⅲ、保育実習指導Ⅲ、キャリアデザインⅢ、キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅢ、保育教職実践演習、専門ゼミⅠ、専門ゼミⅡ
東日本医薬専門学校	社会福祉
主な学外活動	
育英大学・短期大学女子バレーボール部（コーチ）	
群馬県バレーボール協会強化委員会（副委員長）	
群馬県社会福祉評価機構（第三者委員）	
東京都保育士等キャリアアップ研修 障害児保育講師担当	
群馬県伊勢崎市新任研修講師担当	
地域における保育園、認定こども園における保育コンサルティング	

## 2. 教育の理念（なぜやっているか）

### 【専門分野を研究する者としての理念とその背景や経験】

私は保育学を主としながら障害児支援及び子育て支援について調査・実践・研究を行っている。特に社会福祉士国家資格、精神保健福祉士国家資格を取得していることから子育て支援においては相談支援に重点を置いた活動を行い、その活動が現在の研究活動にも影響している。

### 【学生の学びに対する理念】

私が担当する科目は、社会福祉に関する法制度やサービスを取扱い、また、子育て支援に関連する科目である。現代の保育において子育て支援は重要なサービスの一つとなっている。また、障害児保育においても障害の発見率の向上から早期支援の重要性が高まっている。そのため、学生が相談支援や障害児支援の理論と知識を単に身につけるだけでなく、事例検討等も踏まえながら、理論と知識を基にした技術の習得も目指している。

## 3. 教育の方法（どのようにやっているか）

科目を履修する学生の理解度は一人ひとりに違いがあり、理解力が高い学生もいれば理解力が低い学生もいる。そのため、全ての科目において毎回で教科書・参考書に沿ったレジュメを作成し、配布している。また、授業はパワーポイントを使用し、視覚的な教材を多く取り入れている。また、限局性学習障害の学生等、特別な配慮が必要な学生に対しては資料について全ての漢字に振り仮名をつけた資料を配布する等、学生の状況に合わせた授業資料を作成している。

幼児理解と教育相談においては、事例検討を多く取り入れ、学生が理論と知識をどのように支援に活かすべきか主体的に学ぶ経験を取り入れている。保育実習指導においては、学生が実習を希望する施設種別について主体的に学びを深めプレゼンテーションを行い、より深い施設理解を図っている。

## 4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

学生による授業評価では、全ての科目において他科目を含めた平均評価よりも高い評価を得ている。評価の中でもパワーポイントを利用した授業運営と難しい用語等について事例を取り入れて説明する方法が評価されている。また、レジュメについても教科書だけで

は、理解が難しいことについて補足的理解を深めていることが評価されている。

## 5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

### 【長期目標】

短期大学は2年間という短い期間で学びを深め、技術を身につける場である。しかしながら、重要なことは学生が短期大学を卒業し、子どもに対する保育はもちろん子育て支援ができる信用ある保育者として活躍することである。また、保育者として保育現場に長く定着し、活躍できる人材育成も重要となる。そのため、2年間という短い学びの中で、いかに卒業後に希望を持って保育に取り組める人材を育成することができる学びの環境づくりが目標となる。

### 【中期目標】

入学する学生が多様化する中、学生に合わせた学びの提供とともに社会人としての自覚形成も重要となる。そのため、保育士養成及び幼稚園教諭教職課程における科目の学びだけでなく、キャリア形成についてもより力を入れた教育活動を行っていきたい。特に学生が保育に対して「楽しい」「やりがいがある」と感じられる学びの環境づくりに努めたい。

【添付資料】 ※全部又は一部の現物を省略しています。

#### 1 授業で使用しているスライドサンプル

(2024年8月21日現在)

# 幼児理解と教育相談

第10回

教育・保育相談の基本②

【教育・保育相談の進め方】

# 教育・保育相談の進め方

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

① 支援の前提

② 支援の開始

(インテーク)

③ 情報収集・情報交換

(スクリーニング)

④ 事前評価

(アセスメント)

⑤ 支援計画の作成

(プランニング)

⑥ 支援の実施

(インターベンション)

⑦ 経過観察

(モニタリング)

⑧ 事後評価

(エバリュエーション)

⑨ 終結

(ターミネーション)



# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (1) 支援の前提

- ・現状確認  
 保育所内のバックアップ体制
- ・気づき  
 子どもと保護者に対する日常的な観察・保護者の養育態度・家庭生活の状況
- ・支援体制の整備  
 職員間の連携・保育所内における事例検討等
- ・保護者との関係の形成

### \* 支援の前提が整わない際に考えられる問題

- ・相談を受けても支援が開始できない
- ・支援を開始しても不十分な支援しかできない

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (2) 支援の開始（インテーク）

- ①保護者から相談を受けた場合
- ②祖父母等家族・親族らから相談を受けた場合
- ③保育者が子どもや保護者の変化に気づき、問題を把握した場合
- ④他の機関・施設から委託された場合

- ・保護者の話を傾聴し、ニーズの把握に努める
- ・保護者との信頼関係の形成に努める
- ・保育士とともに問題を解決することを話し合う（契約）

### \*苦情や要望などに対して

支援を求めるシグナルと肯定的に捉え、保護者の気持ちに寄り添った支援

⇒信頼関係の形成につながる

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (3) 情報収集・情報交換(スクリーニング)

ニーズに対する情報を集める段階であり、子どもの気持ちや発達、保護者の思いや置かれている状況、親子の関係性、家庭環境などの把握をする



保育中の子どもの様子、送迎時の保護者との会話や面談、親子の関係性の観察、連絡帳でのやりとりなど

### \*情報収集・情報交換に必要なこと

- ・信頼関係の構築を図りながら行う
- ・質問攻めではなく、傾聴的態度で行う
- ・必要度の低い情報については、すぐに収集するのではなく、ゆっくりでも構わない
- ・情報を収集するだけでなく、情報の提供も行う

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (4) 事前評価(アセスメント)

情報収集・情報交換によって得た情報の整理・分析



支援課題の明確化

情報の整理・分析は複数で行える場合は複数で行い、より多くの視点から支援課題を明確にする

#### \*ケース会議(カンファレンス)の必要性

- ・ニーズの把握と課題の明確化
- ・総合的な支援の方針の検討
- ・長期的な目標・短期的な目標の設定
- ・専門機関との連携、地域資源・人材の活用
- ・職員の体制づくり

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (5) 支援計画の作成（プランニング）

アセスメントで明らかになった支援課題をもとに支援内容について実際に検討する段階

- ・支援法や支援内容の検討は、**保護者**とともに行われることが大切
- ・その場で支援が必要な場合は、保育者がその場で一人で支援方法や支援内容を検討して実施することもある

### \*教育・保育相談におけるプランニング

- ・家庭で行える支援と保育所で行う支援を検討する  
（保護者の子育てに対する肯定感を育む）
- ・短期的目標は実現可能であり、目標達成が実感しやすいものにする  
（スモールステップ）

# 教育・保育相談の進め方

## ■ スモールステップ

最初から高い目標を掲げるのではなく、目標を細分化し、小さな目標を達成する体験を積み重ねながら、最終目標に近づいていくこと

短期目標は現実的かつ実現可能な目標にする



保護者が自らの力で課題を乗り越えた達成感  
保護者自身の子育てに前向きな姿勢を育む

短期目標①

短期目標②

短期目標③

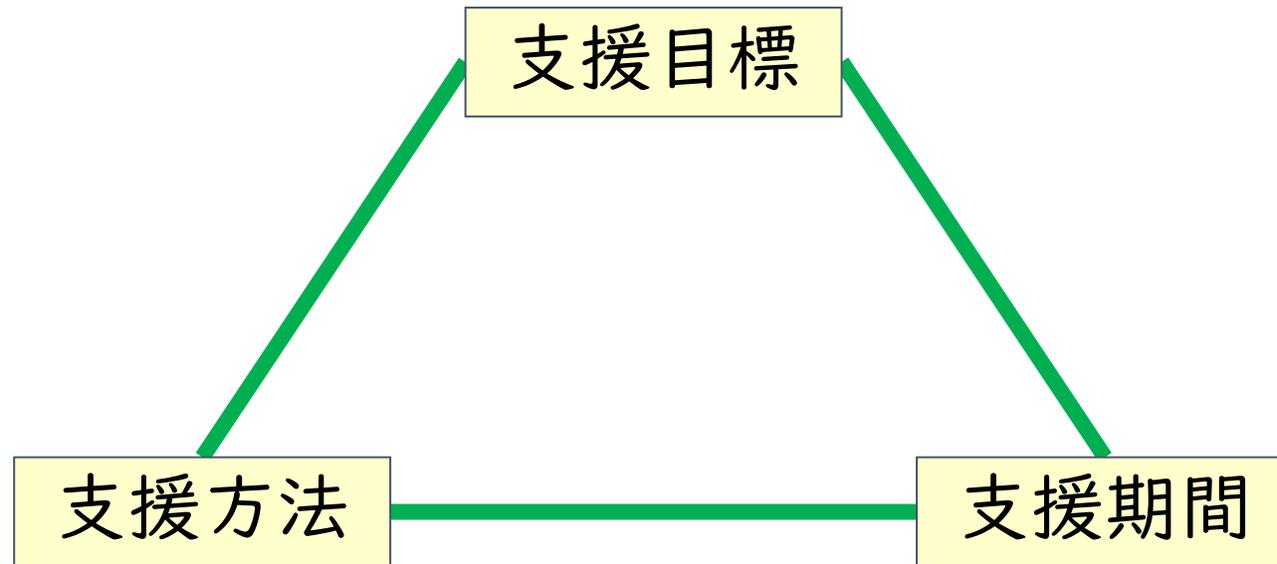
短期目標④

最終目標  
(長期目標)

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 生活の時間軸に沿った支援の組み立て

支援を考える中で、その実現の可能性と、利用できる支援のサービスやプログラムの内容と一定の目標を実現するために必要な時間（期間）をセットで考える。



支援内容を明らかにする概念の視点

生活時間軸のなかで区切った支援を積み上げることで、問題の見通しが持てる。

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (6) 支援の実施（インターベンション）

プランニングに基づいた支援を実行する段階

- ・言語的支援
- ・動作的支援
- ・母子の関係への支援
- ・子どもを通しての支援

組織的

保護者

### (7) 経過観察（モニタリング）

支援の過程において、子どもの状態や保護者の状態を確認し、支援や働きかけの効果や機能を評価する

必要であれば、再度アセスメントを行い、支援計画の立て直しを図り、より効率的で現実的な支援を展開する

モニタリング⇒アセスメント⇒プランニング⇒インターベンション

# 教育・保育相談の進め方

## ■ 教育・保育相談の展開過程

### (8) 事後評価(エバリュエーション)

これまでの支援過程から課題が達成されているか評価する

- ・保護者の表情や行為、言葉、子どもの様子、他の保育者からの情報などの様々な視点で評価する
- ・課題が達成されていない場合は、支援の在り方を再検討する

エバリュエーションは保護者と一緒に行うことが大切

### (9) 終結(ターミネーション)

- ・新たな支援の必要性がない場合
- ・子どもが退園してしまう場合
- ・保育所では支援が困難であり、専門的な支援が必要となった場合  
⇒施設・機関につなぎ連携は保ちつつ終結する

終結時には、保護者に対して常に支援体制(フォローアップ体制)があることを伝える

# 教育・保育相談の進め方

## 演習 事例から読み取る展開過程の理解

1. 提供された事例を読んで、2～3人組で話し合い、保育相談支援の展開過程ごとに色鉛筆などで文章を囲んでみましょう
2. 提供された事例を読んで、スクリーニングにおいてはどのような情報が必要となるかグループで意見を出し合ってみましょう
3. 事例では支援課題を明確にしたと記載されていますが、事例を全て読みどどのような支援課題を設定できるか考えましょう
4. 事例では支援内容について細かい記載はありません、具体的な支援内容について計画してみましょう  
計画内容は支援課題に基づき、段階を踏まえて考えてみましょう

\*1～2はグループで行い、3～4はグループで行いつつ、時間が足りない場合は各自で取り組みます